

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT を効果的に活用して、基礎学力の定着を行ったり、多くの考えを共有したりすることができた。学習に対する意欲を高めることのきっかけになった。
- ・メモの取り方や、話の要点をまとめる活動を日常的に行ってきたことで、話の内容を聞き取ることができるようになってきた。
- ・昨年同様、漢字学習では反復練習を継続して行ってきたことで、新出漢字が定着した児童が増えた。

(2) 課題

- ・「知識・技能」において、新出漢字の定着度をさらにあげていく必要がある。日々の漢字練習やテスト、ICTを活用して、普段から触れる機会を設けていくことが大切である。
- ・「主体的に取り組む態度」に課題がある。前年度も課題に挙がっていたが、特に目標値との差が開いてしまった。国語の学習に楽しさを覚え、意欲的に、粘り強く考えるように手立てを考えていく必要がある。
- ・文章を書くことにおいて、目標値を大幅に下回ってしまった。自分の考えをまとめたり、それを文章で書いたりする活動を普段から行い、「書く」ことに慣れていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	達成率－5.5		
第5学年	達成率＋1.2	達成率－0.9 (第4学年時)	
第6学年	達成率－1.2	達成率－0.9 (第5学年時)	達成率±0 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「知識・技能」は目標値を下回っているが、前年度よりも目標値に近づいてきた。 ・漢字の読み書きは目標値に達してはいないが、近い状況にある。日々の漢字練習を含め、漢字に対し意欲的な児童が多い。 ・言葉に関しては目標値を下回ってしま	・「思考・判断・表現」は目標値を下回る結果となった。 ・「話すこと・聞くこと」については、目標値を下回ったが、近い結果となった。自分のことを話すことは意欲的に行えるが、自分の考えや、理由を挙げて話すことが課題である。	・「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値を大幅に下回っている。国語に苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。

った。主語・述語の関係や接続詞について課題がある。	・「書くこと」については、目標値を下回る結果となった。文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多く、自分の意見を書くことに苦手意識がある。 ・「読むこと」については、目標値を下回る結果となった。特に物語文の内容を読み取ることに課題があり、登場人物の心情を読み取ったり、気持ちを書いたりすることが課題である。	
----------------------------------	--	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「知識、技能」は目標値を下回っているが、前年度よりも目標値に近づいてきた。 ・漢字の書くことが目標値を上回ったが、読むことは下回っている。読むことのほうが苦手意識があることが分かる。	・「思考・判断・表現」は目標値に近い結果となった。 ・「話すこと・聞くこと」については、目標値を上回っている。相手に伝わるように自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりすることができている。 ・「書くこと」については、目標値に近い結果となった。6年生に関しては、文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。決められた文字数の中で、意見を書くことに課題がある。 ・「読むこと」については、目標値を下回る結果となった。特に説明文の内容を読み取ることに課題があり、何について説明している文章なのかを読み取る力をつける必要がある。	・「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値を大幅に下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・新出漢字は、継続して練習をし、文章を書く中ですすんで使うように指導する。音訓両方の読み、それを使った言葉や短文作りの学習をすることで正しく使えるようにする。 ・物語文等で「だれが・何をしている」ということを確認していくことで、主語と述語についての理解を深めるように日常的に指導していく。	・「話すこと・聞くこと」については、相手を見て話を聞き、順序に気を付けて聞いたり話したりできるようにするために、ペアで伝え合う活動を行う。 ・話し方・聞き方の定型を指導し、それを活用して自分のことを話す場を設定する。 ・「書くこと」については、日記などを用いて、身近な事柄を簡単に文章にまとめる活動を通して、抵抗感なく書くことを習慣にさせる。	・授業や日々の家庭学習等でICT機器を効果的に活用し、楽しみながらも基礎・基本を定着できるようにする。 ・朝のスピーチを有効活用し、「どこで・何をした・どう感じたか」の型にあてはめ、考える。自分のことを伝える楽しさが感じられるようにする。 ・読み聞かせの時間や図書の時間を充実させ、自分の興味のある本や、季節や行事にあった本を見つけるきっかけをすることで読書意欲を喚起する。

	・簡単な文章構成メモを作り、順序よく文章が書けるようにする。例文を示し、より良い書き方を知り、例文を取り入れた文章を書かせる。	
--	---	--

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・新出漢字を繰り返し、確実に書けるように練習することで、文章でつかえるようにする。 ・朝学習の時間を使ってタイピング練習や、タブレット端末への入力活動を定期的に行い、日常的にローマ字の読み書きを復習し、練習させる。	・自分の考えを、指定された長さや、「初め・中・終わり」の構成を意識して書く機会を増やす。定期的に物語文や説明文を要約する課題を出すことで、定着度をあげる。 ・理由や根拠を含め、目的を明確にしながらかけるよう、構成メモを作り、自分の考えを確認しながら書くようにさせる。	・朝学習を有効活用し、読書に親しむ機会を多くとり、図書室を活用して、様々な種類の本に触れる機会を作る。 ・課題について話し合いをする場面では、ICT機器を活用して伝えたいことを分かりやすくしたり、意見共有を図ったりして発表の機会を多くする。 ・朝のスピーチを有効活用して、テーマに沿って話題を考えたり、発表者のスピーチを聞いて感想や質問を行ったりする活動を通して、「話すこと・聞くこと」の学習に関心を高める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み書きは、反復練習を行っていく。ドリルパークを活用し、授業内や家庭でも気軽に練習が行えるようにする。 ・語句の役割や主述関係・修飾・被修飾関係などは問題を繰り返し行い、練習させる。	・接続詞の正しい使い方を理解させ、文章の中で使えるようにするために、教材に出てきた接続詞に着目し、接続詞の役割や使い方などをその都度確認していく。 ・「書くこと」については、文章の構成・記述の仕方を重視し、自分の考えと理由を明確に書かせる。 ・「読むこと」については、様々な種類の本を読むようにする。小説に親しみ、語彙や文章力、読解力を育てる。 ・説明文では、中心となる語句や文書の構成から、筆者の主張は何であるかを見付けられるよう、事例と主張をそれぞれ色で分けて線を引かせる。 ・物語文では、あらすじや登場人物の関係を捉え、登場人物の心情を表す言葉や情景、描写をもとにとらえられるようにさせる。	・課題についての話し合いやプレゼン資料等を ICT 機器を活用して意見共有をしたり、分かりやすく相手に伝える工夫を行ったりすることで、関心・意欲を高めていく。 ・朝読書の時間を継続するとともに、図書室を積極的に活用することで、読書の楽しさを感じたり、物語に対して関心をもたせたりする。 ・朝のスピーチを有効活用し、時間指定を設け、時間内で自分のことを伝えられるようにし、「話すこと・聞くこと」学習に関心を高めるように努める。